家庭でできる、実験レシピ!

【実験9:あぶなくない、ふん火?】

ー 推奨クラス:ミドルクラス・アドバンスクラス ー

■実験の流れ

自分(じぶん)で作(つく)った山を使(つか)って、火山のふん火を再現(さいげん)してみましょう。

■実験の手順

①トレイのまん中にプラスチックコップを上むきにおき、そのコップを中心にして、紙ねん土で山を作ります。

②おす、台所用せんざい、赤い絵の具をまぜ合(あ)わせたものを、火山の火口(まん中のプラスチックコップ)にそそぎ入れます。入れる量(りょう)は、だいたいコップの7分目(ぶんめ)くらいです。

③重そうをといた水を、ゆっくりと火口にそそぎ入れて、どうなるか観察(かんさつ)します。

■用意するもの

おす…100cc
重(じゅう)そう「大さじ4はい」をといた水…100cc
台所用(だいどころよう)せんざい…150cc
赤い絵(え)の具(ぐ)…少(すこ)し
紙(かみ)ねん土…2〜3個(こ)
小さめのプラスチックのコップ
ボウル、トレイ(おぼんなど)
計量(けいりょう)カップ

【実験を始める前に】

■実験を始める前に実験のやりかたをよく読(よ)んで、さいごにどうなるか、考えて(予想:よそうして)みましょう!

[　　]

【実験が終わったら】

■予想したことと、実験の結果(けっか)は同(おな)じでしたか? もしちがっていたら、その理由(りゆう)を考えましょう。

[　　]

【考えるヒント】

①この実験(じっけん)プログラムは、科学(かがく)の原理(げんり)などは特(とく)にありません。ふん火の現象(げんしょう)を、自宅(じたく)で再現してみるプログラムです。

②山を作らないで、中がよく見えるとう明(めい)な容器(ようき)を使って、同(おな)じ実験をしてみましょう。そうすると、「重そう」の役割(やくわり)をよく観察することができます。